# 運動やスポーツを楽しむことができる生徒を育てる保健体育科学習指導 -知識をつなぐ単元構成を通して-

長期派遣研修員 福岡県立小郡高等学校 教諭 藤崎 厚志

# I 主題設定の理由

# 1 社会の要請・教育の動向から

21世紀は「知識基盤社会」の時代であり、活動の基盤となる知識・情報・技術を獲得するだけでなく、活用していく能力が必要であり、個人の能力だけでは対応しきれない社会の変化に、自分とは異なる言語や文化、価値観等を有する他者と交流し、共生していくことが求められている。

文部科学省「第2期スポーツ基本計画」(平成29年3月)においては、「スポーツが変える。未来を 創る。Enjoy Sports, Enjoy Life」をスローガンに、スポーツの楽しさや喜びこそがスポーツの価値の 中核であると捉え、全ての人が自発的にスポーツに取り組める活力ある社会づくりのためにスポーツ の価値を共有していくことや、スポーツを通して多様性を尊重する世界の実現を目指していくこと等 が基本方針に掲げられている。また、その基本方針に基づきスポーツ参画人口を拡大していくことや スポーツの価値を向上させること等が今後5年間に取り組む施策として掲げられており、学校教育に おいては、体育活動を通じ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てることが重要であると示されている。

次に、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月、以後、答申と言う) において、現行学習指導要領の課題として、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること、学ぶことの楽しさや意義が実感できていないこと等を挙げ、新しい時代に必要となる資質・能力を①生きて働く知識・技能、②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等、③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の三つの柱に整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程を改善していく必要性が示された。

中でも、学びの深まりの鍵となる保健体育科の「見方・考え方」については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点から運動やスポーツの価値や特性に着目し、楽しさや喜び、体力向上に果たす役割の視点で捉えることや、自己の適性に応じた多様な関わり方と関連付けることと整理された。そして、内容の改善・充実の項目においては、「体力や技能の程度、障がいの有無及び性別・年齢にかかわらず、スポーツの多様な楽しみ方が共有できるように配慮すること」と示された。

さらに、インクルーシブ教育システムの視点からも、全ての学校に発達障がいを含めた障がいのある子どもたちが在籍している可能性があることを前提にし、一人一人の個性に応じてその力を伸ばしていくことの必要性についても示された。

このことから、生徒が主体的・対話的に課題を解決することができるような学習過程を通して、新しい時代に必要となる資質・能力をバランスよく身に付けるととともに、運動やスポーツの価値や特性に着目させ、多様な関わり方を共有しながら、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指していくことが重要であると考える。

また、福岡県において策定された「福岡県学校教育振興プラン」(平成27年)では、運動やスポーツをする習慣の定着、自尊感情や規範意識等が全国平均よりも低いこと等を課題として挙げ、「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」ことをコンセプトにした「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、学ぶ意欲や自尊感情、チャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等、子どもが自律的に成長するための人格的資質の育成を目指している。

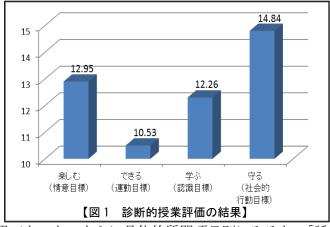
よって本研究において、生徒が運動やスポーツの価値を理解し、他者と関わり合いながら主体的に 問題解決していく中で、運動やスポーツを楽しむことができる生徒を育てることは大変意義深いこと であると考える。

# 2 生徒の実態から

# (1)診断的授業評価

生徒の体育の学習に対する意識について調査するために、授業評価尺度(高橋、岡澤、高田ら2000)を用いた診断的授業評価を行った。【図1】に示した結果から、クラス全体の総合評価の平均は、50.58点で、高等学校段階の診断基準+に位置しており、生徒の学習に対する意識が高いことが分かった。

また、項目ごとに分析すると、楽しむ(情意目標)は 12.95 点(診断基準 0)、できる(運動目標)は 10.53 点(診断基準 0)、学ぶ(認識目標)は 12.26 点(診断基準+)、守る(社



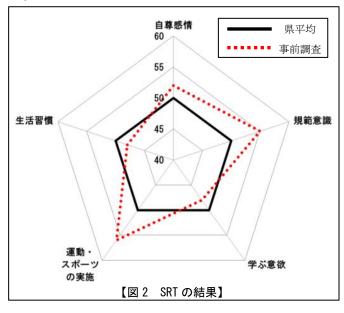
会的行動目標)14.84(診断基準+)という結果であった。さらに具体的質問項目別にみると、「話し合うときは、自分から進んで意見をいいます」(1.8 点%3 点満点)、「体育で運動するとき、自分のめあてをもって勉強します」(1.6 点)、「体育では分かったと思うこと(知識)を実際にいかすことができます」(2.0 点)、「私は運動が上手にできる方だと思います」(1.8 点)の 4 つの調査項目が最も低かった。

【表1 高等学校段階の各項目・次元の得点に関する診断基準】				
項目名	+	0	_	
楽しむ(情意目標)	15.00~13.12	13.12~10.83	$10.83 \sim 5.00$	
できる(運動目標)	$15.00\sim11.72$	$11.72 \sim 9.20$	$9.20\sim~5.00$	
学ぶ(認識目標)	$15.00\sim11.22$	11.22~ 8.86	$8.86 \sim 5.00$	
守る(社会的行動目標)	15.00~13.81	13.81~11.75	$11.75 \sim 5.00$	
総合評価	$60.00 \sim 48.55$	48.55~41.96	$41.96\sim20.00$	

#### (2) SRT (児童生徒理解のための尺度調査ツール)

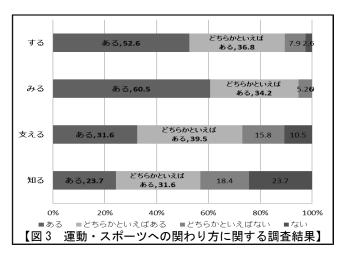
SRT は福岡県教育委員会が作成したもので、生徒の「自尊感情」「規範意識」「学ぶ意欲」「運動・スポーツの実施」「生活習慣」を知ることができる調査ツールである。(得点はZ得点〔偏差値〕で算出し50点が福岡県の平均値)

本研究においては、体育の学習内容に合わせて、質問項目を一部改変し、調査を行った。【図 2】に示した結果から、生徒の「学ぶ意欲」の全体平均が 48 点で県平均を下回っており、自尊感情についても、52 点と、県平均値程度の数値であった。また、「自尊感情」については、全体平均では県平均を上回っているが、個人別でみると、県平均を上回った生徒の割合が 47%であり、半数以上の生徒が県平均を下回っている現状であった。



# (3) 運動・スポーツに関するアンケート

事前調査アンケート「運動やスポーツへの関わり方について」の中で、「する」「みる」「支える」「知る」への関心について、【図3】に示した結果から、「する」に関心があると答えた生徒は52.6%、どちらかといえばあると答えた生徒は36.8%で89.4%の生徒が関心を示した。「みる」に関心があると答えた生徒は60.5%、どちらかといえばあると答えた生徒は34.2%で94.7%の生徒が関心を示した。「支える」に関心があると答えた生徒は31.6%、どちらかといえばあると答えた生徒は39.5%で



71.1%の生徒が関心を示した。「知る」に関心があると答えた生徒は23.7%、どちらかといえばあると答えた生徒は31.6%で55.3%の生徒が関心を示した。これらの結果から、特に「する」と「みる」の項目に関心を示している生徒が多く、「知る」については他の項目と比べ関心を示している生徒が極端に少ないという現状が分かった。

また、「する・みる・支える・知る」の内、3つ以上の項目に対して「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた生徒は52.6%しかおらず、運動やスポーツの楽しみ方の視点が少ない生徒が多数いることが分かった。

次に、「運動やスポーツそのものに価値や意義があると思いますか」という質問に対して「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒は86.9%と高かった。しかし、「どのようなところに価値や意義があると思いますか」という質問に対しては、具体的な内容を書くことができない生徒が10%、そして、「ストレス発散」「病気の予防」「筋力が高まる」等、健康や体力の向上に関する内容が57%と半数以上を占めており、運動やスポーツの価値や意義の捉え方の視点が少ないことが分かった。

さらに、「高校卒業後に運動やスポーツを実施していきたいと思いますか」という質問に対して「思う」「どちらかといえば思う」と答えた生徒は 76.3%、「高校卒業後に運動やスポーツに何らかの形で関わっていきたいと思いますか」という質問に対して「思う」「どちらかといえば思う」と答えた生徒は 39.5%だった。

以上(1)(2)(3)の3つの事前調査より、生徒が目標を持って学習に取り組み、学習した知識を活用しながら、仲間と支え合ったり認め合ったり、技能を伸ばしたりすることで、「できる」ことを実感し、自尊感情を高めることができるようにするとともに、運動やスポーツを「する・みる・支える・知る」の多様な視点で楽しむことできるようにするための手立てが必要であることが分かった。

# 3 これまでの指導の反省から

私自身、これまでの学習指導を振り返ると、「生徒が運動やスポーツの楽しさを味わうことのできるような授業を実践したい」という思いで授業を実施してきた。しかし、教師主導型の授業が中心で、現行学習指導要領に示された、知識を活用した課題解決や、他者に自分の考えを伝える力を育むための指導の工夫が十分にできていなかった。よって、生徒の主体性や課題解決能力、コミュニケーション能力が十分に育まれず、その結果、全ての生徒に運動やスポーツの楽しさを味わわせることができない授業を展開していたという反省点がある。

本研究においては、これらの反省点を踏まえ、生徒が学習の基盤となる知識を習得し、知識を活用することができるような授業を展開したい。また、生徒が他者と協働し学び合う学習過程を通して資質・能力を高め、全ての生徒が運動やスポーツの楽しさを味わえるようにする。そして、このことが豊かなスポーツライフの実現につながっていくであろうと考え、本主題を設定した。

#### Ⅱ 主題・副主題について

# 1 主題の意味

#### (1)「運動やスポーツを楽しむ」について

運動やスポーツを楽しむとは、運動やスポーツの価値や意義を理解し、自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方が分かることである。

運動やスポーツの価値や意義とは、例えば運動やスポーツを通してフェアプレーの精神を育むことや、人と人及び地域と地域の交流を促進し、活力ある社会を実現すること等がある。また、体を動かすことで心地よさや楽しさを味わえることや、目標に向けて他者と協働し、達成することにより自己実現の喜びや感動を味わい、それらを共有できること等もある。学校体育の場においても、授業を通して、他者を尊重したり協力したりする態度や規律を尊ぶ態度を培い、学んだ知識や技能を活用することができるような実践的な思考力・判断力等の資質・能力を育成することができると考える。そして、このような資質・能力を育成するためには、価値判断を押し付けるのではなく、生徒の思考・判断により内在する価値や意義に気付くことができるようにすることが重要であり、そのような経験を積み重ねていくことが、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現にもつながると考える。

自己の適性とは、体力や運動能力、性別や障がいの有無や興味・関心のことである。また、年齢を重ねライフステージが変化していくことに伴い自己の適性も変化していくものであると捉える。

現在の運動やスポーツへの関わり方は多様であり、「する・みる・支える・知る」の関わり方の中から、自己の適性に応じて自ら選択し、主体的に関わっていくことにより楽しさが味わえるものであると考える。

このように、運動やスポーツには多様な関わり方があり、価値や意義を理解し、自己の適性に応じた関わり方が分かることが、運動やスポーツを楽しむということであると考える。

#### (2)「運動やスポーツを楽しむことができる生徒」について

運動やスポーツを楽しむことができる生徒とは、運動やスポーツの価値や意義を理解し、自己の 適性に応じて運動やスポーツを楽しむための「知識・技能」「思考力・判断力」「情意・態度」の 3 つの資質・能力を身に付けた生徒である。

運動やスポーツを楽しむためには、そこに様々な価値や意義があるということに気付き、前向きな気持ちを持つことが必要である。そのためには、基礎となる知識を習得し、それらを活用しながら課題解決に取り組むことによって、技能が高まったり、他者を認めたり、協力したりする態度が形成されることが重要となる。また、3つの資質・能力をバランスよく高めることで、運動やスポーツにある様々な価値や意義を実感し、多様な関わり方の中から自己の適性に応じて選択できるようになり、運動やスポーツを楽しめるようになると考える。

本研究では、運動やスポーツを楽しむことができる生徒の姿を具体的に【表2】のように考えた。

【表 2 目指す生徒の姿について】		
資質・能力	目指す生徒の姿	
知識・技能	運動やスポーツの価値や意義について理解している生徒	
川	基礎的な技能を身に付けている生徒	
	自己の課題解決に向けて工夫しながら取り組むことができる生徒	
思考力・判断力	自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方を見つけることができる生徒	
<b>法文</b> 数库	他者を認め、支え合おうとしている生徒	
情意・態度	自己の伸びを実感し、意欲的に取り組もうとしている生徒	

#### 2 副主題の意味

# (1)「知識」について

知識とは、運動やスポーツに関わる概念的知識と具体的知識のことである。

運動やスポーツに関わる概念的な知識とは、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方や、体を動かすことの楽しさや喜び、協力、フェアプレーの精神等、運動やスポーツが有する価値や意義、特性や魅力等、運動の実践や生涯スポーツにつながる知識のことである。

運動やスポーツに関わる具体的知識とは、各運動領域で学習する技術の名称や行い方、協力の仕 方等のことである。

# (2)「知識をつなぐ」について

知識をつなぐとは、各領域で学習した知識を領域のみの知識にとどまることなく、他領域の学習において、それらの知識を活用することである。

知識は、運動やスポーツを楽しむために必要な資質・能力を育むための基礎になるものであると考える。答申では、「知識・技能」は、相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものであると示された。単なる知識の習得ではなく、様々な場面で活用することが重要であると考える。本研究では、各領域で学習した知識を、領域内だけでなく他領域においても活用していく。

平成 29 年 7 月に公示された中学校学習指導要領解説(保健体育編)の改訂の趣旨の項において、知識について次のように示された。「知識は意欲、思考力、運動の技能などの源になるものである。また、具体的知識の理解にとどまらず、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの知識の定着を図ることが重要である。さらに、運動やスポーツの価値や文化的意義を学ぶ体育理論の学習の充実、各領域の特性や魅力の理解や態度の形成に関する知識の理解など知識を基盤とした学習の充実が必要である。」

つまり、知識をつなぐとは、運動やスポーツの概念的知識と具体的知識を習得することにとどまらず、これらの知識を活用しながら学習することで、運動やスポーツを楽しむために必要な資質・ 能力を高めていくことであると考える。

#### (3)「知識をつなぐ単元構成」について

知識をつなぐ単元構成とは、学習した知識を活用しながら学習活動を行い、「知識・技能」「思考力・判断力」「情意・態度」の3つの資質・能力をバランスよく高めていく単元の流れのことであり、体育理論の単元と運動領域の単元を関連付けていくことである。

本研究においては、体育理論の学習内容を運動領域と関連付けながら学習活動を展開していく(関連付け  $I \sim V$ )。例えば、体育理論で学習する「する・みる・支える・知る」の多様な運動やスポーツとの関わり方やフェアプレーの精神、運動やスポーツが有する楽しさや喜び等をはじめとする様々な価値や意義等の概念的な知識を、運動領域の学習に活用することにより、運動やスポーツの価値や意義を実感したり、運動領域で学習した技術の行い方や協力の仕方等の知識の必要性を体育理論の学習を通して実感したりすることである。

そして、これらの学習活動を通して、運動技能の高まりや、運動やスポーツの価値や意義の理解、 多様性を尊重し、他者と協働しようとするなどの態度の形成につながっていくと考える。

さらに、「する・みる・支える・知る」の運動やスポーツの多様な楽しみ方から、自己の適性に応じて選択することで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送っていけることにつながると考える。

#### Ⅲ 研究の目標

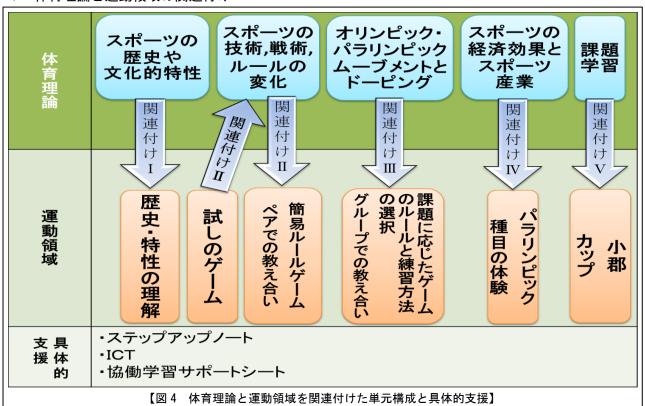
知識をつなぐ単元構成を通して運動やスポーツを楽しむことができる生徒を育てる保健体育科の学習指導の在り方について究明する。

#### Ⅳ 研究の仮説

保健体育科の学習において、体育理論と運動領域を関連付けながら単元を構成し、具体的支援を行えば、生徒の「知識・技能」「思考力・判断力」「情意・態度」の資質・能力がバランスよく高まり、運動やスポーツを楽しむことができる生徒を育てることができるであろう。

#### V 研究の具体的構想

# 1 体育理論と運動領域の関連付け



#### (1) 関連付け I

#### 運動やスポーツの価値や意義、特性に触れることができるようにする。

まず体育理論において、運動やスポーツが有する価値や意義に気付くことができるようにする。 次に、スポーツの概念や起源について学習し、運動やスポーツには「協力」「他者を尊重する」「仲間と喜びを共有できる」等の様々な価値や意義があることをおさえる。

そして、運動領域において、体育理論で学習した知識について想起した後に、歴史や種目の特性、 技能の名称や行い方のポイントなどについて知り、それらの習得した知識を活用しながら協働的に 学習活動に取り組むことにより、運動やスポーツの価値や意義に触れることができるようにする。

#### (2) 関連付けⅡ

# 基礎的な知識や技能を習得することができるようにする。

まず、運動に対する自己やチームの課題を見つけることができるように、運動領域において試しのゲームを行う。

次に、体育理論において、スポーツの技術、戦術、ルールの変化について学習する。そのことでスポーツを楽しむためには技能を習得すること、作戦を立てること、ルールを工夫することが有効であることに気付かせる。

さらに、運動領域においてペアで教え合ったり、簡易化されたルールのゲームを行ったりすることを通して、運動に対する知識や技能の定着をより効果的に図る。

# (3) 関連付けⅢ

# 習得した知識・技能を活用し高め合うことができるようにする。

まず、体育理論でオリンピック・パラリンピックやドーピングについて学習し、運動やスポーツが有する価値や意義をより多様な視点で捉えることができるようにする。

次に、運動領域において、学習した知識を想起し、簡易ルールでのゲームや練習などの活動を仕組む。その際、簡易ルールや練習方法について提示し、課題に応じて選択させる。

#### (4) 関連付けⅣ

# 運動やスポーツの多様性について理解できるようにする。

まず体育理論において、スポーツは、「する」ことだけではなく「みる、支える、知る」の多様な 関わり方があることを実感する映像を視聴する活動を仕組む。

次に、スポーツが経済にも大きな影響を与えていることや、スポーツへの関わり方が多様であることに気付かせる。

そして、自己の適性に応じた関わり方について考える活動を仕組む。

さらに、運動領域において、パラリンピック種目の体験を行う。

#### (5)関連付けⅤ

# 運動やスポーツの多様な関わり方を活かすことができるようにする。

まず、体育理論において、これまでに学習した知識を想起した後、課題学習を行い、運動やスポーツへの多様な楽しみ方について知る。

次に、運動領域において、スポーツに「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を体験し、 楽しさを実感させるために、学習の成果を発揮する大会(小郡カップ)を行う。

#### 2 具体的支援

# (1) ステップアップノート

学習した知識を想起し、課題を明確にしながら取り組むことができるようするための学習プリントである。【資料 1】や【資料 3】のように、各活動において学習のポイントや気付き、振り返りの際のまとめ等を整理し、学習した知識や思考を可視化するためのものである。

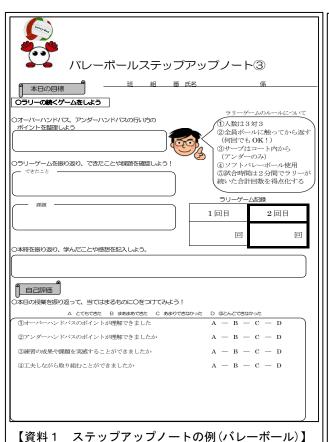
## (2) ICT

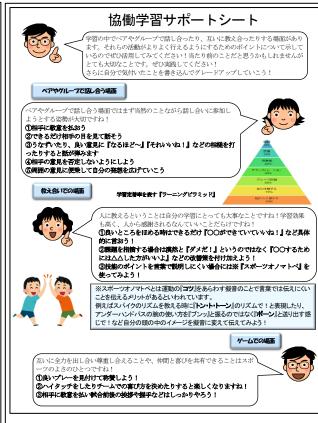
言葉だけでは十分に伝えられない情報や重点的に伝えたい情報を可視化して、写真や動画、資料等を生徒に見せることで理解を深めるために使用する。また、教え合いの場面においては、生徒がICTを活用し、協働的に活動しながら課題解決ができるようにする。

# (3) 協働学習サポートシート

生徒同士での話し合いや、運動技能の教え合い等の活動においてコミュニケーションをよりよく 行うための言葉かけのポイントを提示した学習プリントのことである。【資料 2】のように、運動技 能を教え合う場面ではオノマトペを活用し、言葉だけでは表現しにくい微妙な感覚やイメージ等を 伝えることにも役立たせる。

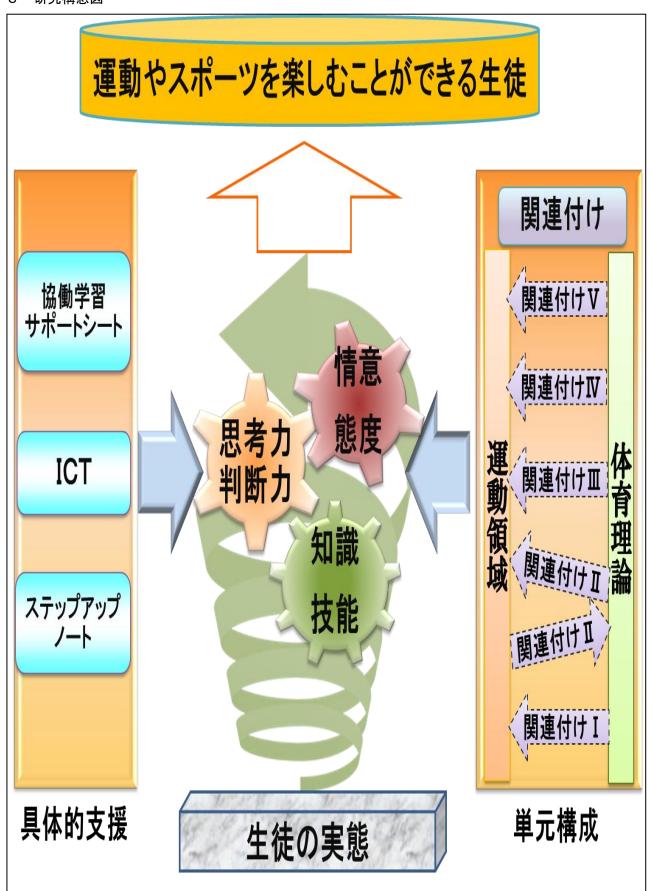
※オノマトペとは運動・スポーツ領域で活用されている擬音語、擬態語のことであり、運動の「コッ」を表現する言葉として用いる。







# 3 研究構想図



# 4 仮説検証の方途

# (1) 対象

福岡県立小郡高等学校 第1学年1組・2組(女子38名)

# (2)期間

検証授業 I 平成 29 年 10 月~11 月 球技「バレーボール」 平成 29 年 10 月~11 月 体育理論「スポーツの歴史、

文化的特性や現代スポーツの特徴」

# (3)内容と方法

仮説を検証するために、学習指導計画に従って単元 1 (体育理論 6 時間) と単元 2 (バレーボール 13 時間) の授業と事前及び事後調査を実施し、データを収集する。

10 :: 11	D 授業と事前及の事後調査を 検証内容	検証方法	判定規準
検証1	運動やスポーツの価値や意義 について理解することができ たか	・ステップアップノートの記述分析 ・事前、事後アンケート「運動やスポーツの価値や 意義について」の結果分析	
検証2	基礎的な技能を身に付けるこ とができたか	・単元2の簡易ルールゲームの結果分析 ・診断的・総括的授業評価「できる(運動目標)」の結 果分析	※判定規準に
検証3	課題解決に向けて工夫しなが ら取り組むことができたか	・ステップアップノートの記述分析	については、
検証4	自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方を見つけることができたか	<ul><li>・ステップアップノートの記述分析</li><li>・事前、事後アンケート「運動やスポーツへの関わり方について」の結果分析</li></ul>	「結果と考察」
検証5	他者を認め、支え合おうとし ているか	・ステップアップノートの記述分析・形成的授業評価「協力」の分析	に明記する。
検証 6	自己の伸びを実感し、意欲的 に取り組むことができたか	・形成的授業評価「成果」「意欲・関心」の分析 ・SRT「自尊感情」「学習意欲」の分析	

# VI 研究の実際と考察

#### 1 単元計画

# 単元計画 体育理論 生徒の思考 学習活動、〇語導上の留意点 学習活動、〇語

# 体育理論①

- (1)スポーツの価値や意義について考える。
- ○スポーツの価値や意義に気付けるようにVTR視聴、イメージマップ記入、ペア交流を設定する。
- (2)スポーツの概念や起源について理解する。
- ○概念や起源についてよりよく理解できるようにIC Tを用いて情報を提示する。

#### 体育理論②

- (1)技術、戦術、ルールの変化について考える。
- ○変化の背景に気付くことができるようにVTR視聴、 グループ交流を通して考える活動を設定する。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。その際、ステップアップノートを活用する。
- (2)技術、戦術、ルールの概念を理解する。 ○正しい概念やそれらの必要性について理解できるようにICTを用いて情報を提示する。

#### 体育理論③

- (1)スポーツの価値や意義について考える。
- ○スポーツの価値や意義の理解を深め、多様性の視点に も気付けるようにVTR視聴、ペア交流を通して考える 活動を設定する。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。その際、ステップアップノートを活用する。
- (2)オリンピック・パラリンピックの価値やムーブメント、ドーピングについて理解する。
- ○正しく理解できるようにICTを用いて情報を提示する。
- (3)自己の運動やスポーツとの関わり方について考える。
- ○自己の適性に応じた関わり方を見付けられように『する・みる・支える・知る』の視点を提示し、考える活動を設定する。

# 体育理論④

- (1)スポーツの多様性について考える。
- ○スポーツと社会との繋がりや多様性に気付くことが できるようにVTR視聴、グループ交流を通して考える 活動を設定する。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。その際、ステップアップノートを活用する。
- (2)スポーツの経済効果について理解する。
- ○正しく理解できるようにICTを用いて情報を提示する。その際、2020東京オリンピック・パラリンピックを題材にし、関心を高めさせる。

#### 体育理論56

- (1)設定したテーマに基づき情報を整理する。
- ○自己の適性に応じた関わり方を見付けられるように、情報をポスターに整理する活動を設定する。
- (2)まとめたことを発表する。
- ○情報を共有することができるように発表する活動を 設定する。

#### スポーツには価値や意義があ りそうだ。

#### 関連付け I

ボールをつなぎ、3段攻撃を成 功させたい。そのためには技能 を高めないといけない

#### 関連付けⅡ-1

#### 関連付けⅡ-2

仲間と協力しながら教え合え ば技能が高まることが分かっ た

たくさんの価値や意義がある ことに気付いた。楽しみ方は1 つではないんだな。

#### 関連づけⅢ

考えながら工夫して取り組む とみんなで楽しめることが実 感できた。練習ではチームで よいところを称賛したり課題 を指摘したりして技能を高め よう。ゲームでは相手やルー ルを尊重して取り組もう。

#### 関連づけIV

スポーツには「する」だけじゃ なくて「みる・支える・知る」 という楽しみ方もあるんだな。 スポーツについてもっと知り たくなった。

体験を通してスポーツの多様 な楽しみ方が実感できた。工夫 次第で様々な違いを越えて楽 しめるんだな。

スポーツの多様な楽しみ方が、 分かった。 小郡カップでは学習 の成果を発揮したい。

#### 関連づけV

試合では3段攻撃が決まって 嬉しかった。審判や分析もしっ かりできた。これからもスポー ツに関わっていきたい。

#### バレーボール

学習活動、○指導上の留意点

#### バレーボール①②

- (1)歴史や特性、技術の行い方について理解する。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○知識を正しく理解することができるように I C T を用いて 資料を提示する。
- (2)試しのゲームを行う。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○課題を明らかにできるように試しのゲームを設定する。

#### バレーボール345

- (1)簡易ルールでのゲームとペアでの練習を行う。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○教え合いながら技能を高めることができるようにペアで練習する活動を設定する。その際、協働学習サポートシートを活用する。

#### バレーボール⑥

- (1)リーグ戦に向けての目標を設定する。
- ○課題をつかめるように簡易ルールでのゲームを行う。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。

#### バレーボール78910

- (1)チームの課題に応じたルールや練習内容を選択 し簡易ルールでのゲームや練習を行う。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○教え合いながら技能を高めることができるようにグループ で練習する活動を設定する。その際、ICT、協働学習サポートシートを活用する。

#### バレーボール①

- (1)シッティングバレーボールの特性やルールを知る。 ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○特性やルールを正しく理解できるようにICTを用いて情報を提示する。
- (2)チーム練習を行う。
- ○基礎的な技能が習得できるように練習する活動を設定する。 (3)簡易ルールでのゲームを行う。
- , ○シッティングバレーの特性を味わえるようにゲームを行う。

# バレーボール203

- (1)小郡カップ(リーグ戦)を行う。
- ○学習した知識を活用できるように振り返る活動を設定する。 その際、ステップアップノートを活用する。
- ○これまでの学習の成果を発揮しながらスポーツを楽しむことができるように小郡カップを行う。

# 2 授業の実際 単元1:体育理論(①~⑥) 単元2:バレーボール(①~⑬)[全19時間]

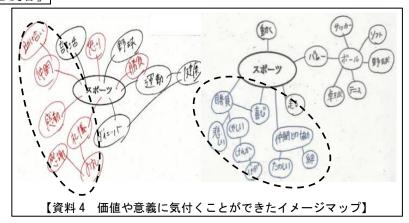
体育理論と運動領域の関連付け I (体育理論①→バレーボール①)

運動やスポーツの価値や意義、特性に触れることができるようにする。

# 体育理論① [スポーツの歴史的発展と変容]

まず、運動やスポーツには価値や 意義があることに気付くことができ るように、イメージマップを用いて、 スポーツについて連想することを記 入する活動を行った。1回目は、ほと んどの生徒が種目名や跳ぶ、走る等 の動きについて記述しており、全て の生徒が10個以下の語句しか書き出 していなかった。

そこで、フェアプレーやスポーツ ボランティア等、スポーツの価値や



意義が含まれた場面を編集した VTR を視聴し、再度イメージマップに記入する活動を行った。

すると、生徒は新たな視点でスポーツを捉え、「協力」「他者との交流」や「相手を尊重する」「ルールを守る」等のフェアプレーに関することなど、運動やスポーツにはたくさんの価値や意義があることに気付き、2回目のイメージマップに記入する活動では、複数の視点で記入することができていた【資料4】。

また、ペアで交流することにより、同じ映像でも、みる視点によって価値や意義の捉え方が違うことに驚いたり、共通する部分に共感したりしている姿がみられた【**資料 5**】。

次に、スポーツの概念や起源について理解することができるように、スポーツの概念や起源等の具体的知識をステップアップノートにまとめる活動を行った【資料 6】。生徒は、ステップアップノートにまとめたり説明を聞いたりすることにより、スポーツについての知識を整理することができていた。



【資料5 交流する生徒の様子】



【資料6 スポーツの起源を学ぶ様子】

最後に学習を振り返り、見つけることができた運動やスポーツの価値や意義について記入する活動を行ったところ、生徒は、「勝ち負けだけでなく交流を深められる」「他者を認める」「喜びを共有できる」「協力」「助け合い」等様々な運動やスポーツの価値や意義をつかみ、ステップアップノートに記入することができていた。また、学習を通して、スポーツの歴史を知ることに関心を抱いた生徒もいた【資料7】。

今回、授業で、スポーツ、概念や、歴史について知らなかったことを知ることができました。特に、スポーツの歴史が面白いと思い、興味を持りました。

#### 【資料7 歴史を知ることに興味を持った生徒の記述】

# バレーボール①

た【資料11】。

まず、体育理論①で学習した知識を活用して活動することができるように、導入の段階で、ステップアップノートを用いて「協力」「他者と交流できる」「助け合える」等の学習した運動やスポーツの価値や意義について想起した【資料 8】。

次に、グループで「バレーボールをみんなで楽しむために必要なことは何か」というテーマでブレインストーミングを行った。生徒は体育理論で学んだ知識を基に意見を出し合い、「協力して教え合う」「相手を尊重する」等、様々な視点で意見を出し合い、チームで共有することができた【資料 9】。



【資料8 体育理論の学習を振り返る様子】



【資料9 ブレインストーミングの様子】

そして、バレーボールを行っている映像や提示された資料を基に、バレーボールの歴史や特性についてステップアップノートにまとめた【資料10】。

さらに、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、スパイク等のボール操作を意識して考えながら練習することができるように、ポイントを提示した。ポイントを確認した後にペアで、技能の程度を知るためのスキルチェックを行ったところ 生徒はポイントを音識しながら数具を活用し



ろ、生徒はポイントを意識しながら教具を活用し、ペアで交流しながら協力して練習する姿が見られ

最後に、バレーボールにおいての価値や意義について整理するための振り返る活動において、生徒は「協力して教え合う」「チームワーク」「ルールを尊重する」など、学習した運動やスポーツの価値や意義についてステップアップノートに記入していた。



# 体育理論と運動領域の関連付けⅡ (バレーボール②→体育理論②→バレーボール③④⑤)

基礎的な知識や技能を習得できるようにする。

# バレーボール②

まず、体育理論①や、前時のバレーボールで学習した知識を活用して試しのゲームに取り組むことができるように、ステップアップノートを用いて「協力」「喜びを共有する」「ルールを尊重する」等の運動やスポーツ価値や意義について想起した。

次に、チームの目標を設定した後に、試しのゲームを行った【資料 12】。試しのゲームのルールについては、事前アンケートにより、バレーボール経験者が少ないこと、バレーボールに苦手意識を抱いている生徒が複数いることなどの実態から、簡易ルールで行った【資料 13】。試しのゲームにおいては、ボールをつなぐための技能が不十分だったため、ラリーが続く場面はあまりみられなかったが、生徒は得点したときに喜び合ったり、相手を尊重し、元気よく挨拶をしたりする姿はみられた。

そして、成果や課題を確認するために試しのゲームを振り返る活動を行ったところ、感想の欄に



【資料 12 試しのゲームの様子】

(コート) バレーコート (ネットの高さ) 2m

(ボール) ソフトバレーボール

(人 数) 4 対 4

(その他) ワンキャッチOKその他

【資料13 試しのゲームのルール】

「技能が高まればもっと楽しめそうだ」「得点したときにハイタッチをしてみんなで喜んだので楽しかった」等の感想を記入していた【資料 14】。

最後に技能を習得することの必要性をつかむことができるように「バレーボールを楽しむためにはどのような技能が必要になるのか」について考える活動を設定すると、「ボールをつなぐためにパスやレシーブ等の技能を高めないといけない」「3 段攻撃を成功させるためにスパイクの技能を高めないといけない」等をステップアップノートに書き出していた【資料 15】。特に、パス、レシーブ、スパイク等のボール操作についての技能を高める必要性を実感している記述が多くみられた。

# ハイタッチや声かけをすることで楽しめるなと思いました。

【資料 14 試しのゲームの生徒の感想】

レシーブを正確にする。ラリーを続ける。パスを正確にする。

【資料 15 技能の必要性を感じている生徒の記述内容】

# 体育理論② [スポーツの技術・戦術・ルールの変化]

まず、スポーツが変化し続けていることに気付く ことができるように、バレーボールのサイドアウト 制で行われていた時と、現在の試合の様子について の VTR を視聴した。そこで「変化していることは何 か」という発問を行った。生徒は、運動領域を題材 にすることで、現在行っているバレーボールと関連 付けながら考え、ルールや戦術が変わっていること に気付くことができていた。また、技術・戦術・ル ールが変化し続けていることや、その背景を知るこ とにより、それらの意義について理解し、技能を高



【資料 16 戦術を学ぶ様子】

め、作戦を考えながら工夫して取り組むことや、ルールを変化させて工夫すれば楽しむことができる ということに気付いている様子が見られた。

次に、技術・技能、戦術・作戦等の概念について整理した【資料 16】。ここで、学習した知識を活用 することができるように、試しのゲームを振り返る活動を設定し、「試しのゲームを通して、バレーボ **ールを楽しむためにはどのようなことが必要だと感じたか**」という発問を行った。すると、生徒は、「協

力する」「ルールを尊重する」等の運動やスポーツの 価値や意義と、ボールをつなぐためのパスやトス等 の技能の必要性について答えた。さらに、提示した 技術のポイントについても確認した。

最後に試しのゲームを映像で振り返り【資料17】、 「バレーボールを楽しむために必要なことは何か」 ということについて考える活動を行った。生徒は、 体育理論の学習を通して、試しのゲームの際に感じ た、技能を高めることの必要性や、作戦を立て工夫 しながら取り組んでいくこと等の必要性をさらに



【資料17 試しのゲームを振り返る様子】

実感し、ステップアップノートに記入していた【資料 18】。

ラリーを続ける (-人いとりが 技能を向上させて続くようにする)ことが 必要だと思う。ケームで.作戦を立てることも必要だと思う。

【資料 18 技能を高めることや作戦を立てることの必要性を感じている生徒の記述内容】

#### バレーボール③④⑤

まず、バレーボール③の導入の段階で、体育理論 で学習した「ルールを尊重する」「創意工夫する」「協 力する」等の運動やスポーツの価値や意義、技術の ポイント等の知識を、ステップアップノートを用い て想起した。次に、活動においては、簡易ルールゲ ームⅠ⇒練習⇒簡易ルールゲームⅡという流れで 授業を展開した。簡易ルールについては、生徒が活 動の中で課題を発見したり、練習の成果をゲームで 発揮し、伸びを実感したりできるようにゲーム I・ Ⅱは同じルールで実施し、ルールは教師が提示した。 また、「ラリーが続いた回数」や「スパイクが決ま



【資料 19 成果や課題を確認する生徒の様子】

った本数」などを得点化し、成果が実感できるように 工夫した。ゲームでは、ラリーの回数がゲームIから ゲームⅡにかけて大幅に向上したり、スパイクの本数 が増えたりしたチームが多数あり、技能が向上してい る様子がみられた。

そして、それぞれの授業の導入や展開のタイミング で、体育理論で学習した運動やスポーツの価値や意義 に関する知識について振り返り、それらの知識を活用 しながら活動できるようにした。生徒は、ステップア



【資料20 スパイクが決まって称賛する様子】

ップノートでゲームの目標を共有し、成果や課題を確認しながら活動に取り組んだり【資料 19】、学習 した知識を活用して創意工夫したり仲間と協力したりしながら技能を高めることができた。

また、練習やゲーム等で、よりよくコミュニケーションをとりながら教え合えるように、協働学習 サポートシートを活用した。生徒は、ペアでの教え合いや、ゲームの場面において、技術のポイント を音で伝えたり、良いプレーに対して「ナイス」「いいね」等と称賛したり【資料 20】、ミスに対して 「ドンマイ」等の声かけをしたり、「正面で捕ろう」「上に上げよう」などアドバイスをしたりするこ とができていた。

その結果、ゲームⅡで「ラリーが続いた回数がゲームⅠより増える」「スパイクが成功した本数がゲー ムIより増える」等、成果が上がっているチームが多数あり、チームで喜び合っている姿がみられた。 授業開始前に意欲的に練習する姿もあり、生徒の学習意欲が向上している様子もみられた。

#### 体育理論と運動領域の関連付けⅢ (体育理論③→バレーボール⑥⑦⑧⑨⑩)

習得した知識・技能を活用し高め合うことができるようにする。

# |体育理論③[オリンピック・パラリンピックムーブメントとドーピング]

まず、スポーツの多様な価値や意義に気付くこ とができるように、2020年東京オリンピック・パ ラリンピックエンブレムのコンセプトや 2016 年 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック の映像を視聴した【資料 21】。

次に、映像を観て印象に残ったことや、それら が有する価値や意義についてステップアップノー トにまとめる活動を行った【資料 22】。生徒は、「人 種、国、障がいの有無等の様々な違いを認めるこ と」「最後まで諦めずに全力を尽くすこと」「スポー



ツを通して大きな感動を得ることができること」等、運動やスポーツの価値や意義について広い視点で 捉え、ペア交流を通して他者の考えに共感する姿も見られた【資料23】。





16

そして、「卓越」「友情」「敬意・尊重」等のオリ ンピックの価値や、「勇気」「強い意志」「インスピ レーション」「公平」等のパラリンピックの価値、 オリンピック・パラリンピックムーブメントについ て学習し、ステップアップノートに整理した【資料 24]

さらに、「これまでの学習の中でこれらの価値に ついて実践できたことはあるだろうか」と発問した ところ、生徒は協力し、支え合いながら取り組むこ とができたこと、創意工夫しながら取り組むことが できたこと等について想起することができた。その し



【資料24 スポーツの価値について学ぶ様子】

ことにより、体育理論を通して、運動やスポーツの価値や意義について学習し、それらの知識を活用 してバレーボールの活動の中で実践できていることに気付き、体育理論で運動やスポーツの価値や意 義をはじめとする知識を学習することの重要性について実感できている様子がみられた。

最後に、自己の運動やスポーツとの関わり方について振り返り、多様な関わり方に気付くことがで きるように、「高校時代」「卒業後」と、「する・みる・支える・知る」という考える視点を提示し、ステ ップアップノートに記入する活動を設定した。生徒は自己と向き合い、これまでの運動やスポーツと の関わり方を振り返りながら、自己の適性に応じて「する・みる・支える・知る」の視点で、どのよ うに運動やスポーツに関わることができるかを真剣に考えていた。その中で、「試合を観戦する、分析 する(みる視点)「審判をする、応援をする(支える視点)」「選手や競技、歴史について調べる(知 る視点)」等といった「する」以外の関わり方があることに気付き、運動やスポーツの楽しみ方について、 考え方の視点を広げることができていた。

#### バレーボール⑥

まず、体育理論③の学習の振り返りを行った。 「学習した運動やスポーツの価値や意義にはどの ようなものがあったか」という発問を通して、生 徒は、これまでの学習やオリンピック・パラリン ピックの学習を通して学んだ、「多様性を認める」 「工夫すれば楽しめる」「全力を尽くす」「互いに 敬意を払う」「ルールを尊重する」等、運動やス ポーツには多様な価値や意義があることについ て想起することができていた。さらに、ステップ アップノートや資料を用いてそれらの知識につ いて確認した【資料 25】。

次に、単元の終末に行うリーグ戦、「小郡カッ プ」に向けて取り組むべき課題についてチームで 話し合う活動を設定した【資料 26】。生徒は「3 段攻撃を成功させたい」「ラリーを続けたい」等 の「する」に関する視点だけでなく、「声をかけ合 って協力する」「チーム内で教え合う」「成功した ときはチームで喜びを共有する」等、体育理論で 学習した運動やスポーツの価値や意義に関する 知識を活用しながら考えることができていた。



【資料 25 体育理論を振り返る様子】



【資料 26 小郡カップに向けて話し合う様子】

# バレーボール789⑩

まず、体育理論③で学んだ、「ルールを尊重する」「相手に敬意を払う」「全力を尽くす」等のフェアプレーに関することや「協力」「創意工夫」「多様性を認める」等の運動やスポーツの価値や意義、バレーボールで学んだボール操作やボールを持たないときの動き、行動の仕方等の知識について、バレーボール⑦~⑩の導入や展開のタイミングで振り返る活動を設定した【資料 27】。

次に、活動についてはバレーボール③~⑤と同様に、簡易ルールゲーム  $I \rightarrow$ 練習 $\rightarrow$ 簡易ルールゲーム  $I \rightarrow$  を展開した。



【資料 27 学習した知識を振り返る様子】

また、バレーボール⑦~⑩では、これまでに学習した知識や技能を活用し、チームの課題に応じて練習やゲームに取り組むことができるように、3種類の簡易ルールゲームと、ゲームのルールに応じた練習方法から選択できるようにした【資料 28】。練習やゲームについては6つのグループを2グループずつの「兄弟チーム」に分けて、兄弟チーム毎に活動を行った。

チームの課題に応じたルールを選択してゲームをしよう!				
		I 『スリータッチゲーム』	Ⅱ 『アタックゲーム』	<b>Ⅲ</b> 『レシーブ・トス・アタックゲーム』
B	的	チーム内でボールをつなぎたい!	スパイクをたくさん打ちたい!	3段攻撃がしたい!
内容と主な		○必ず全員触ってから返球する ○スパイクなし ○1~2回目で相手コートに返してしまう、3回で相 手コートに返せない場合はサーブから再開する ☆ラリーが途切れた回数を記録用細二記入する	○互いに3回交代でスパイクを打ち合う ○スパイクがコート内に決まれば1ポイント ※スパイクを打たない時は、相手のスパイクを正面で キャッチし、すぐにボールを渡す ☆各チームの総スパイク数と個人のスパイク数を記録 用紙に記入する	
JL—JL0.	D選択	( <b>Lベル1)</b> ・オールワンパウンド 0K ( <b>Lベル2</b> ) ・ファーストのみワンパウンド 0K	【LK/L】】  ① 直上投げ上げからセッターへパス(アンダーor オーバー キョンセッターがキャッチから投げ上げ コスパイク・ス・パー キョン・カーバー キョン・カーバー キョン・カーバー キョン・カース・パー カース・パー カース・パー カース・パー カース・パー・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン	【レベル】】 ・ファーストワンパウンド OK⇔セカンドキャッチ OK 【レベル】 ・ファーストワンパウンド OK のみ
考えるポ	ポールに触れ	・どうすればボールがつながりやすいのか? ・どこにどのように <b>返味</b> すればラリーが続きやすいの か?	<ul> <li>どんなバスを行えばトスが上げやすいのか?</li> <li>どんなトスを上げればスパイクが打ちやすいのか?</li> <li>強いスパイクを打つためにはどうすればよいか?</li> </ul>	・どんなレシープをすればトスが上げやすしのか ・どんなトスを上げればスパイクが打ちやすいのか? ・守備のスパイクレシープはどうすれば上へあげられ るか?
ポイント	ポールに触れ	・バスをしやすい <b>位置や体の向き</b> とはどのようなものか?(ポジショニングと移動)	<ul><li>・スパイクの助走に入るためにどの位置に移動すればよしのか?</li><li>・どのタイミングでスタートすればよいのか?</li></ul>	- 最初の健康をどのようにするか?(セッターが最初 に触らないためには?) ・他の仲間がボールを触っているときにどうすればよ しか?(それぞれの位置への移動)

#### 選択したルールに応じて練習をしよう

	選択したルールに応じて練習をしよう				
	練習メニュー	6±30±52.00=200 740 5 ± 7 ±100 1	多供の表えたの例号	考えるポイント	
	秋音メニュー	練習内容の説明【得られる効果】	条件の変え方の例示	ボールに触れる時の動き	ボールに触れない時の動き
	①声かけ三角パス	①必ず声をかけながら三角形でパスを行う	・バウンドあり or なし	<ul><li>どんな声を出せばボー</li></ul>	・どんな <b>パス</b> を出せばボー
T		【声での連携、狙った方向へのパス】 ○ ○ ○ 5ゃん!		ルがつながるか?	ルがつながりやすいのか?
-			・アンダー限定、オーバー		
l û		144	限定	<ul><li>どこにどのように返球</li><li>すればラリーが続きやす</li></ul>	・味方にパスをしやすい位 <b>置や体の</b> 向きとはどのよう
Ţ	②2対2でのミニゲーム	②2 対 2 でネットを挟んでラリーを続ける(3 回以内に返球)		りのか?	宣も本の向きとはとのよう なものか?
3	(22 M) 2 CO) 2 = 7 A	【ボールを触っていない時の準備の動きや連携の仕方】		C 103/31 :	(ポジショニングと移動)
シデ		P			(113 2 1 - 2 ) (1940)
1					
4					
17	<b>①</b> スパイクドリル	Tスパイクを打つ位置でボールを持ってもらい助走からのス	<ul><li>ボールを投げ上げてもら</li></ul>	<ul><li>強いスパイクを打つた</li></ul>	・スパイクの助走に入る <i>た</i>
п п		パイク【自分の最高到達点や打点の確認】	う、左右両方行う	めにはどうすればよい	めにどの位置に移動すれば
ス	②トス&スパイクドリル	②直上投げ上げからトスを上げ、トスに合わせてスパイク		か?	よいのか?
2		【ボールの落下地点の予測やジャンプのタイミングの確認】	<ul><li>直上投げ上げではなくパ</li></ul>		
ゲ			スからのトス、トスの左右 の振り分け	・どんな <b>トス</b> を上げれば スパイクが打ちやすいの	・どのタイミングでスター トすればよいのか?
1 ).			の対象のラブリテ	かっ	トゥオロよよいのかい?
_				73 - 1	
	①チャンスボールからの	①ネット越しから山なりのボール (チャンスボール) を投げて	<ul><li>チャンスボールの入れ方</li></ul>	・どんなレシーブをすれ	<ul><li>最初の陣形をどのように</li></ul>
ш		もらいレシーブ⇒トス⇒スパイク	のバリエーション	ばトスが上げやすいのか	するか?(セッターが最初
7 -	2	【チャンスボール時の役割に応じたポジショニングや周囲の	・キャッチやパウンドのあ	· どんな <b>トス</b> を上げれば	に触らないためには?)
ラシ		動きに合わせた動きの確認】	りorなし	スパイクが打ちやすい	
25 ラ			・スタートのポジションの	のか?	<ul><li>他の仲間がボールを触っ</li></ul>
1 :	② ①に対するスパイク	② ①で打たれたスパイクに対してレシーブし、3回以内で返	バリエーション	<ul><li>・守備のスパイクレシー</li></ul>	ているときにどうすれば
单 攴	レシーブ	球する【スパイクに対するレシーブカ向上と周囲のカバーリン		ブはどうすれば <b>上へ</b> あ げられるか?	よいか? (それぞれの位 置への移動)
		グの動きの確認】		いられるかべい	(三~~〇ノイを用川)
1	ı		ı		1

また、「小郡カップ」におけるルールについても提示し、生徒が小郡カップに向けて目標を持って取り組めるようにした。ルールについては、生徒の技能の程度や、車椅子の生徒が在籍していること等の実態を考慮し、生徒の実態に応じた簡易ルールを設定し、提示した【資料 29】。

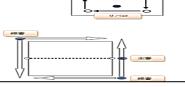
【資料 28 3種の簡易ルールと練習内容】

【小郡カップのル -ルについて】

- -スト(1 回目の触球)のみワンバウンド OK
- 4回以内に返球する
- セッター、リベロ固定で他はローテーションを行う。 サーブはサービスラインの後方よりアンダー ハンドサーブで行う

【小郡カップでの審判等の役割について】 試合がないチームは審判等の運営を行います。

①主審(兼得点係)1名 ②線審2名 ③分析1名(試合後に分析シートを両チームに渡す) ①記録2名(それぞれのチームをタブレットで撮影する)



# 【資料 29 小郡カップのルール】

生徒は、チームの課題に応じてゲームのルール や練習方法を選択し、ステップアップノートで目 標を設定し、「協力する」「創意工夫する」「教え合 う」「喜び合う」等の運動やスポーツの価値や意義 に関する知識や、技術の行い方や協力の仕方等の 知識を活用していた。また、ゲームIで見つけた 課題を解決するために作戦を立て、工夫しながら 取り組んだり、タブレットや電子黒板を活用し【資 料 30】【資料 31】、チームで教え合ったりしながら 課題解決に向けて取り組む姿もみられた。その結 果、ゲームⅡで練習の成果を発揮しスパイクをた くさん成功させたり、3 段攻撃を成功させたりす ることができていた。

また、生徒は、「フォーメーションについて工夫 する【資料 32】」、「カバーリングを意識する」等、 ボールを持たないときの動きにも着目し、工夫し ながら活動に取り組み、ボール操作についても「3 段攻撃につなげられるように」「味方が打ちやすい ように」等、連携を意識しながら取り組めている姿 がみられた。そして、よいプレーを称賛したり、 喜びを共有したりすることでスポーツの価値や意 義を実感している姿もみられた【資料33】。



【資料30 タブレットを活用する様子】



【資料31 電子黒板を活用する様子】



【資料32 フォーメーションを工夫する様子】



さらに、車椅子の生徒が在籍しているグループでは、提示されたルールを創意工夫して、「両方のチ ームに車椅子の生徒がいる」という条件でゲームを行った。生徒は提示されたルールに加え、車椅子の 生徒はワンバウンド&キャッチを認める、キャッチ後は投げ渡しても、投げ上げてから打ってもよい 等の特別ルールを設定し、活動していた。そして、活動の中で、障がいの有無に関わらず創意工夫を すれば、みんなで楽しめるということを実感している様子がみられた【資料34】。





【資料34 車椅子ルールでのバレーボールを楽しむ生徒の様子】

# 体育理論と運動領域の関連付けIV (体育理論④→バレーボール⑪)

運動やスポーツの多様性について理解できるようにする。

# 体育理論④ [スポーツの経済効果とスポーツ産業]

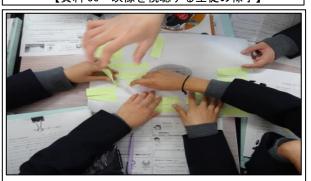
まず、スポーツへの関わり方が多様であることに 気付くことができるように、スポーツを題材にした 映像を視聴し【資料 35】、スポーツへの関わり方に ついて気付いたことをステップアップノートに記入 する活動を行った。生徒は、スポーツを「する」立場 である選手以外にも、「みる・支える・知る」といっ た多様な形でスポーツに関わっている人がいるとい うことに気付くことができていた。

次に、「オリンピック・パラリンピックに関わっている人、もの、ことをたくさん見付けよう」というテーマでブレインストーミングを行い【資料 36】、グループ毎に出た意見を分類・整理する活動を行った【資料 37】。生徒は、多様な視点で考え、活発に意見を出すことができていた。また、それらを分類し、名前を付けてまとめることで、スポーツへの関わり方が多様であることについて理解することができていた【資料 38】。そして、スポーツの経済効果について、2020年東京オリンピック・パラリンピックを題材に取り上げながら学習した後に、体育理論で学習したオリンピック・パラリンピックをはじめとする運動やスポーツの価値や意義についての知識を、ステップアップノートを用いて振り返った。

また、「オリンピック・パラリンピックの学習の中で印象に残っていることはあるだろうか」という発問を行うと、「真剣勝負の場なのに、国を超えて助け合っていたこと」「最後まで諦めず全力を尽くしていたこと」「障がいがあっても、強い気持ちで乗り越え、立ち向かっていたこと」「スポーツを支えている



【資料35 映像を視聴する生徒の様子】



【資料 36 ブレインストーミングの様子 】



【資料37 意見を分類している様子】

人がいたこと」等の場面を想起し、スポーツの価値や意義を全体で共有することができた。

最後に、自己の適性に応じた関わり方を見つけることに活かすことができるように、自己のオリンピック・パラリンピックの楽しみ方について考える活動を設定した。生徒は、これまでに学習した知識を活用し、思考することで、「会場に行って直接見てみたい」「ボランティアに参加したい」「デザイン関係に興味があるので、ユニフォームのデザインを考えている人について知りたい」「競技のルールや選手について知りたい」等、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方の視点で楽しみ方を捉えることができていた。

主な人	・見る・支える	, 住産 : (公元)	3、会場
選手 同じたくのコーチ 解説者 監とく 運営トレーナー 分析者 記録者	人、選手の家族 春見客 ・身近で支える ・ドクター 栄養士・	ボール・和道	そうじするト

# バレーボール(1)

これまでの体育理論で学習した運動やスポーツ の価値や意義に関する知識を、運動領域の学習に 活かし、体験を通して価値や意義を実感すること ができるように、パラリンピックの正式種目である「シッティングバレーボール」を行った。

まず、ステップアップノートを用いて、体育理論で学習した、「工夫すれば誰もが公平にスポーツを楽しめる」ことや、「敬意・尊重」等のフェアプレーに関すること、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して楽しめること等の、運動やスポーツの価値や意義について想起した【資



# 料 39]。

次に、バドミントンコートを使用して、場を設定し【資料 40】、練習とゲームを行った【資料 41】。 ルールについては生徒の技能の実態に応じて簡易ルールを設定した。



生徒は「難しかったけどとても楽しかった。」「普段のバレーボールとは違う目線で楽しかった。スピード感があった。」等の感想をステップアップノートに記入しており、シッティングバレーボールを楽しんでいる姿がみられた。

最後に、実感した運動やスポーツの価値をまとめることができるように、「スポーツをみんなで楽し むために必要なこと」について考える活動を設定した。生徒は障がいがある人もそうでない人も同じよ うにスポーツを楽しめるようにするという視点で考え、「違いを認めること」「ルールを工夫すること」 「みんなで喜びを共有すること」等、体験を通して実感することができた運動やスポーツの価値や意 義をステップアップノートに書き出していた。

#### 体育理論と運動領域の関連付けV (体育理論⑤⑥→バレーボール⑫⑬)

運動やスポーツの多様な関わり方を活かすことができるようにする。

# |体育理論⑤⑥「課題学習]

自己の適性に応じた楽しみ方を見つけることに 活かすことができるように、「2020年東京オリンピ ック・パラリンピックと私」というテーマで課題学 習を行った。

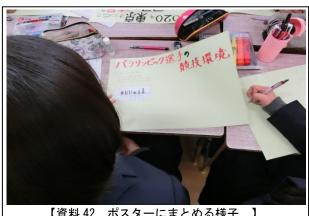
まず、ステップアップノートを用いて、運動や スポーツには「する・みる・支える・知る」の関 わり方があり、それぞれの視点で楽しめることや、 性別、障がいの有無等の多様性があっても工夫す れば楽しめること等、学習した運動やスポーツの 価値や意義等についての知識について想起した。

次に、「する・みる・支える・知る」の4つの関 わり方から、自己の興味・関心に応じて各自で調 べたことをポスターにまとめる活動を行った。生 徒はインターネットや書籍等を活用しながら、主 体的に活動に取り組んでいた【資料 42】。

そして、個人で調べたことについて情報を共有 することができるようにグループ毎に発表する活 動を設定した。生徒はオリンピック・パラリンピ ックについて「する・みる・支える・知る」の関 わり方で調べ、グループにおいて一人ひとり発表 したり他者の発表を聞いたりすることにより、 2020 年東京オリンピック・パラリンピックへの関 心が高まっている様子が窺えた【資料 43】。

さらに、代表生徒による ICT を活用した全体発 表を行った【資料 44】。

最後に、体育理論の学習についてステップアッ プノートを用いて振り返り、これまでに学習した ことを想起した後に、「小郡カップにおける自己の **楽しみ方」というテーマについて考える活動を設** 定した。生徒は、「全力を出し切って楽しみたい」 「みんなで協力して楽しみたい」「試合だけでなく 分析や記録、審判も頑張りたい」等これまでに学 習した「する・みる・支える・知る」の関わり方や、し



【資料 42 ポスターにまとめる様子



【資料 43 グループでの発表の様子 】



【資料 44 代表生徒の発表の様子 】

「全力を尽くす」「協力する」「相手やルールを尊重する」等の運動やスポーツの価値や意義を小郡カ ップの中で発揮したいという思いを書き出すことができていた。

# バレーボール⑫⑬「小郡カップ」

生徒がこれまでに学習してきた「する・みる・支える・知る」の楽しみ方や「協力する」「相手やルールを尊重する」「楽しさや喜びを共有する」「全力を尽くす」等の運動やスポーツの価値や意義、高めることができた技能等の学習の成果を発揮しながら楽しむことを目的に小郡カップを行った。

まず、発問やステップアップノートでの振り返りを通して、これまでに学習した運動やスポーツの価値や意義を整理し、個人の目標を設定してからリーグ戦を行った。生徒はチームで協力しながら全力でゲームを楽しみ、得点が入ったり、よいプレーがあったりした時等に、声をかけ合ったり、ハイタッチをしたりして喜びを共有する姿がみられた。また、試しのゲームではみられなかった「レシーブ→トス→スパイク」の3段攻撃をバレーボール経験者以外の生徒が成功させ、練習の成果をゲームで発揮できたことに対してチームで喜び合う姿もみられた【資料 45】。



さらに、ゲームを「する」だけでなく、試合を分析する、審判や記録(タブレットでの撮影)をする、 応援をする等、スポーツに多様に関わりながら楽しむことができていた【資料 46】。また、試合前後に は、相手を尊重し、丁寧に挨拶をする姿がみられ【資料 47】、ゲーム中は、得点が決まる度にチームで 喜び合う姿もみられた【資料 48】。





最後に、単元を振り返る活動を設定した。生徒は、「運動が苦手でも、『する・みる・支える・知る』 の多様な関わり方で運動やスポーツを楽しめること」「運動やスポーツを通して仲間と交流し、絆を深 めることができること」など、実感することができた運動やスポーツの価値や意義についてステップ アップノートに記述したり、自己の適性に応じた運動やスポーツの楽しみ方について記述したりする ことができていた。

# 3 結果と考察

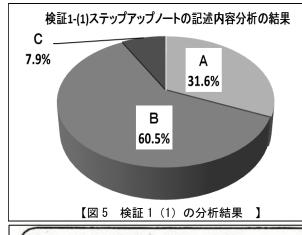
【表 3 目指す生徒の姿と検証項目】		
資質・能力	目指す生徒の姿	
知識・技能	運動やスポーツの価値や意義について理解している。〈検証 1〉	
	基礎的な技能を身に付けている。〈検証2〉	
思考力・判断力	自己の課題解決に向けて工夫しながら取り組んでいる。〈検証3〉	
	自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方を見つけている。〈検証4〉	
情意・態度	他者を認め、支え合おうとしている。〈検証 5〉	
	自己の伸びを実感し、意欲的に取り組もうとしている。〈検証 6〉	

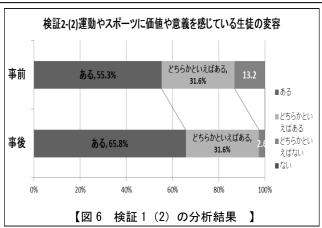
検証 1 「運動やスポーツの価値や意義について理解することができたか。」について、【表 4】の 2 つの 方法により総合的に判定した。

MACS TREETING TICE		
【表 4 検証 1 の判定方法】		
方法		
(1)ステップアップノートの 記述分析	ア. 単元 1-①と単元 2-①の記述内容の分析	
	イ. 単元 1-3と単元 2-8の記述内容の分析	
	ウ. 単元 1-④と単元 2-⑪の記述内容の分析	
(2)事前、事後アンケート「運動や	  運動やスポーツに価値や意義を見いだしている生徒の割合と具	
スポーツの価値や意義につい 体的記述内容の分析		
て」の結果分析	PP   1   1   1   1   1   1   1   1   1	
※単元1は体育理論、単元2はバレーボールのことを示している。		

【表 5 検証 1 (1) の判定規準】			
A		a が 2 つ以上	
В	下記のア〜ウの項目の abc の数	A、C 判定以外	
C		c が 2 つ以上	

	【表 6 検証 1 (1) ステップアップノートの記述分析ア〜ウの判定規準】				
7		単元1-①、2-①の両方に、運動やスポーツの価値や意義に関する記述が複数ある。			
	a	(記述例)協力、ルールの工夫、全力を尽くす、ルールの尊重、喜びの共有、交流			
ア b 単元 1、2		単元1、2の両方に、運動やスポーツについての価値や意義に関する記述がある。			
	c	a、b以外			
	0	単元 1-③に、運動やスポーツについての価値や意義に関する記述が複数あり、かつ単元			
	a	2-⑧に実感することができた価値や意義についての記述がある。			
イ	1.	単元 1-③に、運動やスポーツについての価値や意義に関する記述があり、かつ単元 2-			
	b	⑧に実感することができた価値や意義について記述がある。			
c a、b以外		a、b以外			
		┃単元 1−④において、「する」「みる」「支える」「知る」に関する 3 項目以上で記述があり、┃			
		単元 2-⑪で「ルールを工夫して楽しむ」「喜びを共有する」「多様性を認める」などの学			
	a	習した知識について具体的に触れながら、実感できた運動やスポーツの価値や意義につ			
		いて記述している。かつ、何故価値や意義を感じたかの理由についての記述もある。			
ウ		単元 1-④において、「する」「みる」「支える」「知る」に関する3項目の記述があり、単			
	1	元 2-⑪で「ルールを工夫して楽しむ」「喜びを共有する」「多様性を認める」などの学習			
	b	した知識について具体的に触れながら、実感できた運動やスポーツの価値や意義につい			
		て記述している。			
	c	a、b以外			





【見つけた具体的な価値・意義について記入しよう】
映像の最初のしまうで、敵だけど、不見手の手をとっているところを見て、スポーツは
自奏を見けを決めるものだけではく、交流を深めたり、自分じゃない、益かを言恋める
ことができるものだと思いました。

【資料 49-1 検証 1 (1) -ア (単元 1-①) の a 評価と判断される記述内容】

声をかける。て、「ねカしあうことの「レー」レを守り、全員では他間を認めること。

【資料 49-2 検証 1 (1) -ア (単元 2-①) の a 評価と判断される記述内容】

【印象に残った場面】 一覧が届の陸上や水泳 年齢や国の関係パケンロー 母国の大切さ

【価値や意義について】

障が済でも競技に出ていっトナーと共に支えか2・自分の限界キッチャリチでおいつめ、最大限の力を出了
一旦国の想いを胸に一生想命に戦う

【資料49-3 検証1(1)-イ(単元1-③)のa評価と判断される記述内容】 サルたよと 144カしたよがら全力でプレーレた。 スパイクが 決まって サルたよと 喜いごので 楽しかった。

【資料 49-4 検証 1 (1) -イ (単元 2-®) の a 評価と判断される記述内容】

パルーの試合をしている人。審判。監督やコーチ。 応援をしている人。マイクで「何かを言っている人。(分析(アナリスト>)

【資料 49-5 検証 1 (1) -ウ(単元 1-④) の a 評価と判断される記述内容】

確がかあってもたくても、11-11を変えることで、みれなかで同じよりに乗しめるから スポーツはかもしろいたと思いました。

【資料 49-6 検証 1 (1) -ウ(単元 2-⑪)の a 評価と判断される記述内容】

# 検証1の考察

【図 5】について、【表 5】【表 6】の規準で判定したところ、Aが 31.6%、Bが 60.5%という結果であった。次に、【図 6】より運動やスポーツに価値や意義を感じている生徒の割合が、事前アンケートでは 86.9%であったのに対して、事後アンケートでは、97.4%に増加していた。さらに、「どのようなところに価値や意義があると思うか」の質問に対する具体的記述内容をみると、事前アンケートでは 10%の生徒が具体的には記述することができておらず、残りの生徒も 57%の生徒は、健康の保持増進に関する記述内容のみで、価値や意義の捉え方の視点が少なかったが、事後アンケートでは、全ての生徒に具体的な記述することがみられ、内容についても「仲間と交流することで絆が深まる」「様々な違いを認め合える」「工夫すればみんなで楽しめる」「体を動かすことで気持ちよくなれる」など、多様な視点で運動やスポーツに価値や意義を見いだし、運動やスポーツの価値や意義を理解していることが窺えた。

このことから、目指す生徒の姿「運動やスポーツの価値や意義を理解した生徒」に迫ることができたと考える。

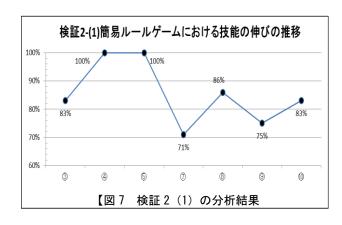
これは、体育理論を通して「相手を尊重する」「ルールを尊重する」「仲間との交流」「喜びを共有する」等の知識をバレーボールの練習や簡易ルールゲームの活動に活用し、運動やスポーツの価値や意義を実感したからであると考える。

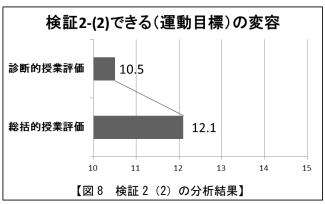
また、ステップアップノートを用いて知識を活用しながら学習できていたことや、仲間と協力しながら取り組む様子が見られたことからも運動やスポーツの価値や意義を理解することへの有効性が分かる。

以上のことから、体育理論とバレーボールの学習を関連付け、ステップアップノートを活用したことは目指す生徒の姿「運動やスポーツの価値や意義を理解した生徒」に迫る上で有効であったと考える。

検証2 「基礎的な技能を身に付けることができたか。」について、【表7】の2つの方法により総合的に 判定した。

1992 0726	【表7 検証2の判定方法】	
方法		
(1)単元 2 (バレーボール) の 技能の変容	単元 2-3~5、⑦~⑩の簡易ルールゲームで、ゲーム II において ゲーム I よりも伸びがみられるチームの割合の推移の分析	
(2)診断的・総括的授業評価「できる(運動目標)」の結果分析	「できる(運動目標)」(15 点満点)の全体平均の比較による分析	





【図7】よりバレーボール③~⑤、⑦~⑩の簡易ルールゲームにおいて、ゲーム I からゲーム II にかけて「スパイクを成功させた本数が増える」「三段攻撃が成功した回数が増える」などの、技能が向上したチームの割合が、高い値で推移しているという結果であった。次に【図8】より、診断的授業評価「できる(運動目標)」の項目の得点が10.5点(診断基準0)であったのに対して、総括的授業評価では12.1(診断基準+)に向上した。

このことから、目指す生徒の姿「基礎的な技能が身に付いている生徒」に迫ることができたと考える。これは、試しのゲームや体育理論を通して技能を高めることの必要性を実感し、体育理論で学習した技術、戦術等の知識をバレーボールに関連付け、学習したことで、パスやスパイク等のボール操作やフォーメーションやカバーリング等のボールを持たない時の動きについての技能が向上したからであると考える。

また、ステップアップノートを用いて学習した知識を想起し、目標を明確に持ちながら、成果や課題をチームで共有して技能を高めることができていたことからも有効性が窺える。

以上のことから、体育理論とバレーボールの学習を関連付け、ステップアップノートを活用したことは目指す生徒の姿「基礎的な技能が身に付いている生徒」に迫る上で有効であったと考える。

<u>検証3</u>「自己の課題解決に向けて工夫しながら取り組むことができたか。」について、【表8】の単元2: バレーボールにおけるステップアップノートの記述内容から総合的に判定した。

	【表 8 検証 3 の判定方法】	
方法		
(1)フニュプマュプァートの割果八年	ア. 単元 2-③の記述内容の分析	
(1)ステップアップノートの記述分析	イ. 単元 2-⑦の記述内容の分析	

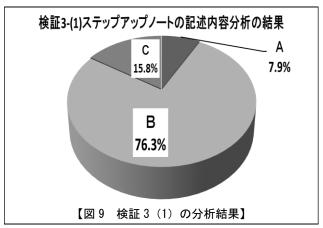
【表 9 検証 3 (1) の判定規準】		
A		aa
В	下記のア、イの項目の abc の数	A、C 判定以外
С		cc

	【表 10 検証 3 (1) ステップアップノートの記述分析ア、イの判定規準】				
ア	a	単元 2-③に、技能向上のために工夫したことの理由(課題点や意図)と技術のポイント			
	_	の両方の視点で記述している。 単元 2-③に、技能向上のために工夫したことの理由(課題点や意図)、もしくは、技術の			
	b	ポイントいずれかの視点で記述している。			
	c	a、b以外			
	a	単元 2-⑦に、技能向上のために工夫したことの理由 (課題点や意図) と技術のポイント			
	а	の両方の視点で記述している。			
イ	b	単元 2-⑦に、技能向上のために工夫したことの理由(課題点や意図)、もしくは、技術の			
	D	ポイントいずれかの視点で記述している。			
	c	a、b以外			

【図9】について、【表9】【表10】の規準で判定したところ、Aが7.9%、Bが76.3.%という結果であった。

このことから、目指す生徒の姿「自己の課題解決に向けて工夫しながら取り組むことができる」に迫ることができたと考える。

これは、体育理論で学習した、「バレーの戦術」「工夫すれば楽しめること」や、「分析する」という「みる」視点での楽しみ方等の知識を練習や簡易ルールゲームの場面で活用し、課題解決に向けて工夫できたからであると考える。



また、ステップアップノートを活用し、目標を明確にしながら課題や成果を確認しながら取り組んでいたことからも自己の課題解決に向けて工夫して取り組むことに有効だったと考える。

以上のことから、体育理論とバレーボールの学習を関連付け、ステップアップノートを活用したことは、目指す生徒の姿「自己の課題解決に向けて工夫しながら取り組むことができる生徒」に迫る上で有効であったと考える。

ボールが遠くにとんでいかないように、手はふらずに、住全住を使ってパスをすること。

【資料 50-1 検証 3 (単元 2-③) の a 評価と判断される記述内容】

トスがしても大事になると思ったので、トスを高く上げたり、ネットからはなしたりしてエ夫しました。自分自身では、ステップと月現を振り上げることを記載しました。

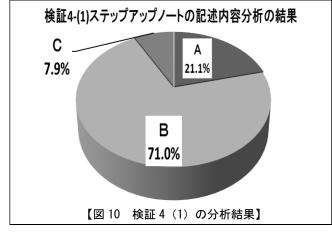
【資料 50-2 検証 3 (単元 2-⑦) の a 評価と判断される記述内容】

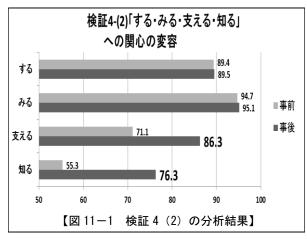
検証4 「自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方を見つけることができたか。」について、【表 11】の2つの方法により総合的に判定した。

	【表 11 検証 4 の判定方法】	
方法		
(1)ステップアップノートの	ア. 単元 1-3と単元 2-⑥の記述内容の分析	
記述分析	イ.単元 1-⑤と単元 2-⑬の記述内容の分析	
(2)事前、事後アンケート「運動や スポーツへの関わり方につい て」の結果分析	「する」「みる」「支える」「知る」それぞれの関わり方に対する意識の変容の分析	
<u> </u>	《単元1は体育理論、単元2はバレーボールのことを示している。	

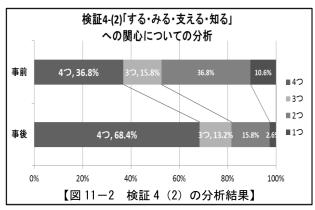
【表 12 検証 4 (1) の判定規準】			
A		aa	
В	下記のア、イの項目の abc の数	A、C判定以外	
С		cc	

	【表 13 検証 4(1)ステップアップノートの記述分析ア、イの判定規準】				
	a	単元 $1-3$ 、単元 $2-6$ のいずれにも、「する」「みる」「支える」「知る」に関する $3$ 項目以上の記述があり、かつ、単元 $1-3$ で記述の根拠について自己の適性に触れながらの記述がある。			
ア	b	単元 $1-3$ 、単元 $2-6$ のいずれにも、「する」「みる」「支える」「知る」に関する $2$ 項目の記述があり、かつ、単元 $1-3$ で記述の根拠について自己の適性に触れながらの記述がある。			
	c	a、b以外			
	a	単元 1-⑤において、「する」に関する記述に加え、「みる」「支える」「知る」のいずれかに関する記述があり、かつ、単元 2-⑩で、単元を通して実感することができた運動やスポーツのよさについて触れながら、自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方について記述している。			
1	b	単元 $1-⑤$ において、「する」に関する記述に加え、「みる」「支える」「知る」のいずれかに関する記述があり、かつ、単元 $2-⑥$ で自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方について記述している。			
	c	a、b以外			





【図 10】について、【表 12】【表 13】の規準で判定したところ、A が 21.1%、B が 71.0%であった。次に、【図 11-1】より、「する」「みる」「支える」「知る」の運動やスポーツの全ての関わり方において関心を示す生徒の割合が増加した。特に「支える」に関心を示している生徒が、事前アンケート 71.1% から 86.3%、「知る」に関心を示している生徒が、事前アンケート 55.3%から 76.3%と大きく増加した。そして【図 11-2】より、「する」「みる」「支える」「知る」の内、3 つ以上に関心を示す生徒の



The second	する	みる	支える	知る
高校生	作物・授業で"技術を向上させる。		部活生成板	スペーツについて
卒業後	体動かしたいとき に運動を移	21'EE181:	1 . 7 4 7" [ 12 13 11-	スポーツの起茶を知る

上記のことについて何故そのように考えたのか?理由について記入しよう自分はあまり 子かついに 関わってことがないけれと。見ることが好けられることも大切たと思う。





【資料 51-1 検証 4 (1) -ア (単元 1-③) の a 評価と判断される記述内容】

する	みる	支える	知る
イドー161=木真木型 自りにさわる。	上手な人をみて, 学习(1)分析する	友達1=アドバイス	ルーレーランパで知る

【資料 51-2 検証 4 (1) -ア (単元 2-⑥) の a 評価と判断される記述内容】

ボールを積極的にとりにいく。 頑張って声を出す。 みんなで楽しみながら一生懸命 プレイする。 分析係の仕事をきちんとやる。

【資料 51-3 検証 4 (1) -イ (単元 1-⑤) の a 評価と判断される記述内容】

私はこれまでの学習を通して「さまざまな形が関わることができる」という点にスポーツの良さを感じました。このバレーの授業だけでもプレイする、暑料、分析、というふうになくさんの役害」があって、それぞれの形で関わることができました。私は、リーダーシップをとったり、大きい声を出したりすることが苦きたったけど、一生懸命練習を頑張ったり分析係の仕事(試合のときに)ときちんとやるなど、自分にできる形で、関わることができて、すごく楽しめました。今後も「みる 支えろ」の形でたこととんスポーツに関わっていきたいです。
この」か月向り投業は運動が苦きな私にとっても楽しかったし、大切なことをたくさん

【資料 51-3 検証 4(1)-イ(単元 2-(3)の a 評価と判断される記述内容】

割合が事前アンケートでは52.6%であったのに対して、事後アンケートでは81.6%に向上した。

このことから、目指す生徒の姿「自己の適性に応じた運動やスポーツの関わり方を見つけることができる生徒」に迫ることができたと考える。

これは、体育理論で学習した運動やスポーツの概念的な知識を活用し、楽しさを実感するための大会を仕組むことにより、「する・みる・支える・知る」の関わり方があり、それぞれの視点で楽しめることに気付いたからであると考える。特に、仲間に教えたり、審判をしたりして「支える」ことや、歴史や特性、スポーツの多様性などを「知る」という視点での楽しみ方が広がったことは、豊かなスポーツライフの実現にもつながる大きな成果であったと考える。

また、ステップアップノートにまとめられた、実感することができた成果や、学習した知識を活用し、運動やスポーツに多様に関わりながら楽しむことができていたことからも有効性が窺える。

以上のことから、体育理論とバレーボールの学習を関連付け、ステップアップノートを活用したことは目指す生徒の姿「自己の適性に応じた運動やスポーツへの関わり方を見つけることができる生徒」に迫る上で有効であったと考える。

# 検証 5 「他者を認め、支え合うことができたか」について、【表 14】の 2 つの方法で総合的に判定した。

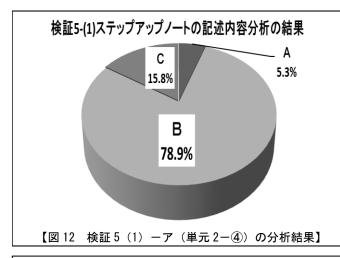
 【表 14 検証 5 の判定方法】		
方法		
(1)ステップアップノートの	ア. 単元 2-④の記述内容の分析	
記述分析	イ. 単元 2-⑩の記述内容の分析	
   <b>(2)</b> 形成的授業評価の分析	ア. 単元 2-④の形成的授業評価「協力」の項目の分析	
(2/11/1)以下37叉来計劃の刀彻	イ. 単元 2-⑩の形成的授業評価「協力」の項目の分析	

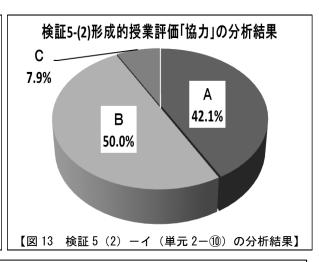
【表 15 検証 5 (1) の判定規準】		
A		aa
В	下記のア、イの項目の abc の数	A、C判定以外
C		cc

	【表 16 検証 5(1)ステップアップノートの記述分析ア、イの判定規準】			
		単元2-④において、仲間への称賛、激励や助言したことについて、よさや課題を示した		
マ	a	り、理由に触れたりしながら具体的に記述している。		
	b	単元2-④において、仲間への称賛、激励や助言したことについて具体的に記述している。		
	c	a、b以外		
		単元 2-⑩において、仲間への称賛、激励や助言したことについて、よさや課題を示した		
,	a	り、理由に触れたりしながら具体的に記述している。		
	b	単元2-⑩において、仲間への称賛、激励や助言したことについて具体的に記述している。		
	c	a、b以外		

【表 17 検証 5 (2) の判定規準】		
A		aa
В	下記のア、イの項目の abc の数	A、C判定以外
C		cc

	【表 18 検証 5 (2) 形成的授業評価ア、イの判定規準】				
	a	単元2-④において、形成的授業評価の「協力」の項目評価が、5(5段階評価)である。			
ア	b	単元 2-④において、形成的授業評価の「協力」の項目評価が、3 以上(5 段階評価)である。			
	c	a、b以外			
	a	単元 2-⑩において、形成的授業評価の「協力」の項目評価が、5(5 段階評価)である。			
1	b	単元 2-⑩において、形成的授業評価の「協力」の項目評価が、3 以上(5 段階評価)である。			
	С	a、b以外			





かったらナーリ哲セノイタッチをしたりフォームいいね」と言いました。

【資料 52 検証 5 (1) -ア (単元 2-④) の a 評価と判断される記述内容】

シャイプレてから高い位置でうつことができるようにうでと足のうごきをいっしょにやった。「1、2」と声でタイミングを教えることができた。

【資料 52 検証 5 (1) ーイ (単元 2-⑩) の a 評価と判断される記述内容】

【図 12】について、【表 15】【表 16】の規準で判定したところ、A が 5.3%、B が 78.9%であった。次に、【図 13】について、【表 17】【表 18】の規準で判定したところ、A が 42.1%、B が 50.0%であった。

このことから、目指す生徒の姿「他者を認め、支え合おうとする生徒」に迫ることができたと考える。 これは、体育理論で、「他者を認める」「協力する」「喜びを共有する」等の価値や意義についての知識 をバレーボールの練習での教え合いや簡易ルールゲームの場面に活用し、他者を認めたり、支え合あ ったりすることができたからであると考える。

また、協働学習サポートシートを使うことで、称賛の仕方や、伝え方等の態度に関する知識を活動

に活かし、よいプレーに対する称賛やミスに対する声かけができていたことや、タブレットを活用し、 互いによいところや課題を確認しながら活動できていたことからも有効性が窺える。

以上のことから、体育理論とバレーボールを関連付け、協働学習サポートシートや ICT を活用したことは目指す生徒の姿「他者を認め、支え合おうとする生徒」に迫る上で概ね有効であったと考える。

しかし、ステップアップノートの記述内容の分析の結果、C評価の生徒が15.8%いたことは、今後の課題である。要因としては、バレーボールのグループ編成をクラス混合チームにしたことにより、普段話すことが少なかったり、まったく話したことがなかったりする生徒がグループ内に多数いたこと、そして、そのようなグループ編成にした意図についての説明が不足していたことが考えられる。

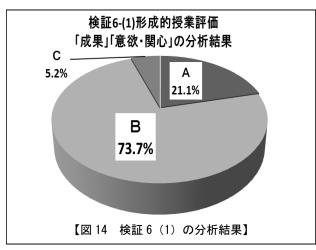
改善策として、「スポーツを通して交流を深め、友情を深めていく」という運動やスポーツが有する 価値や意義についてオリエンテーションを通して生徒に理解させることや、体ほぐし等の運動を通し て、生徒同士の交流を深めさせるための手立てを行うことが必要であると考える。

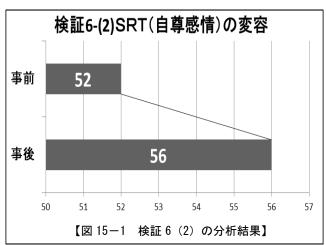
検証 6 「自己の伸びを実感し、意欲的に取り組もうとしているか」について、【表 19】の 2 つの方法により総合的に判定した。

【表 19 検証 6 の判定方法】			
方法			
(1) 形成的授業評価の分析	ア. 単元 2-⑩の形成的授業評価「成果」「関心・意欲」の項目の 分析		
	イ. 単元 2-⑫の形成的授業評価「成果」「関心・意欲」の項目の 分析		
(2) 事前、事後に実施したSRT の分析	「自尊感情」「学習意欲」(50 点が県の平均値)の全体平均の比較 による分析		

【表 20 検証 6 (1) の判定規準】			
A	下包のアーズの項目の abo	aa	
В	下記のア、イの項目の abc の数	A、C判定以外	
C	Vノ女人	cc	

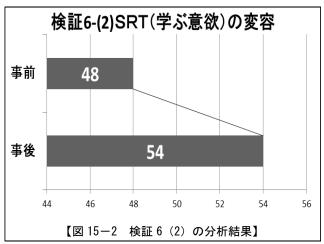
【表 21 検証 6 (1) 形成的授業評価ア、イの判定規準】				
	a	単元 2-⑩において、形成的授業評価の「成果」「関心・意欲」の 2 項目評価が、いずれ も 5 (5 段階評価) である。		
ア	b	単元 2-⑩において、形成的授業評価の「成果」「関心・意欲」の 2 項目評価が、いずれ も 3 以上(5 段階評価)である。		
	c	a、b以外		
	a	単元 2-⑫において、形成的授業評価の「成果」「関心・意欲」の 2 項目評価が、いずれも 5 (5 段階評価) である。		
イ	b	単元 2-⑩において、形成的授業評価の「成果」「関心・意欲」の 2 項目評価が、いずれも 3 以上(5 段階評価)である。		
	c	a、b以外		





【図 14】について、【表 20】【表 21】の規準で判定したところ、A が 21.1%、B が 73.7%であった。次に、【図 15-1】【図 15-2】より、事前アンケートでは「自尊感情」が 52 点(Z 得点、50 点が県の平均値)から 56 点、「学ぶ意欲」が 48 点から 54 点に向上した。さらに「自尊感情」において、得点が県平均値を上回っている生徒の割合が、事前アンケートでは 47%であったのに対して、事後アンケートでは 57%に向上した。

このことから、目指す生徒の姿「自己の伸びを 実感し、意欲的に取り組もうとする生徒」に迫る ことができたと考える。



これは、体育理論で学習した、「ベストを尽くす」「仲間との交流」「創意工夫する」等の運動やスポーツの価値や意義についての知識をバレーボールに活用し、簡易ルールゲームや練習に取り組んだことにより、よりよく技能が高まり、自己の伸びを実感したり、意欲的に取り組んだりすることにつながったからであると考える。

また、タブレットや電子黒板等の ICT を生徒が活用し、視覚的に自己の伸びを実感し、意欲的に取り組んでいたことからも有効性が窺える。

以上のことから、体育理論とバレーボールの学習を関連付け、ステップアップノートを活用したことは目指す生徒の姿「自己の伸びを実感し、意欲的に取り組くもうとすることができる生徒」に迫る上で有効であったと考える。

# Ⅷ 研究のまとめ

#### 1 成果

#### (1) 体育理論と運動領域の関連付け

体育理論とバレーボールを関連付けた単元構成において、各領域で学習した知識を活用しながら学習したことにより、運動やスポーツを楽しむために必要となる資質・能力がバランスよく高まった。

そして、運動やスポーツには「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方があることや、「仲間と喜びを共有できる」「創意工夫すれば障がいの有無、国籍、性別等の違いを越えて楽しめる」「仲間と協力しながら高め合える」等の価値や意義があることについて理解が深まり、多様な楽しみ方を身に付けることができた。

# (2) ステップアップノートの活用

体育理論で学習した知識をバレーボールの学習に活用する際に、ステップアップノートを活用したことにより、運動やスポーツに関する概念的知識について深く理解することができた。そして、両領域において、単に、具体的知識を習得するだけにとどまらず、知識を活用した学習となった。このことにより、運動技能がよりよく高まったり、他者と協働しながら活動したりすることができた。さらに、運動やスポーツに対して前向きな気持ちを持ち、自尊感情が高まった生徒が増加した。

#### 2 課題

# (1) 関連付けの仕方について

関連付けIVにおいて、体育理論とパラリンピック種目の体験を関連付け、成果は得られたが、 関連付けⅢのタイミングでパラリンピック種目と関連付ければ、多様性を認めたり、ルールを工 夫したりすることへの思考がより広がったのではないかと考える。

また、今後については体育理論の年間 6 単位時間の配分や、実施する内容の順序性、運動領域 との関連の仕方等を研究し、他領域の学習における関連付けの有効性についても明らかにしてい きたい。

# (2) 伝え合う力を高める手立ての工夫

本研究では、チーム編成を意図的にクラス混合にしたが、1年次では、生徒間のコミュニケーションがまだ浅く、教え合いや話し合い等の場面で活発に活動できるまでに時間がかかった。

改善に向けては、オリエンテーションでチーム編成の意図を説明し、学習を通して「仲間と交流し、友情を深めることも運動やスポーツの価値である」ということを理解させることが重要である。また、「学習したことを相手に分かりやすく伝えること」は、答申において、現行学習指導要領の課題として示されていることから、今回活用した「協働学習サポートシート」をさらに改善し、生徒が協働的に学習できる場の設定の工夫を行う必要があると考える。

さらに、保健体育科のカリキュラムにおいて、3年間の見通しを持ち、生徒の実態や、発達段階 を踏まえ、他者と交流したり協力したりする場面を計画的に仕組んでいく必要があると考える。

#### 引用・参考文献

- · 文部科学省(2009)「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」 東山書房
- · 文部科学省(2017)「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
- · 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領解説 体育編」
- ・藤原光政(2017)「学習指導要領改訂のポイント 小学校中学校 体育・保健体育」明治図書出版
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター (2012)「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のため の参考資料(高等学校保健体育)」 教育出版
- ・高橋健夫,岡出美則,友添秀則,岩田靖(2010)「体育科の教育学入門」 大修館書店
- ・佐藤豊,友添秀則(2011)「楽しい体育理論を作ろう」 大修館書店
- ・下村芳弘(2011)「思考ツールの教科書」 東洋経済印刷
- ・佐藤豊(2017)「新学習指導要領の展開 保健体育編」 明治図書出版
- ・高橋健夫,大築立志,本村清人,寒川恒夫,友添秀則,菊幸一,岡出美則(2013) 「基礎から学ぶスポーツ概論」 大修館書店
- ・田中博之(2016)「アクティブラーニング実践の手引き」 教育開発研究所
- ・梅澤秋久(2016)「体育における「学び合い」の理論と実践」 大修館書店
- ・今井清光 (2015)「THE「学び合い」」 明治図書
- ・岡野昇、佐藤学(2015)「体育における「学びの共同体」の実践と探究」 大修館書店
- ・鈴木一行(2015)「よい体育授業を求めて」 大修館書店
- ・岩田靖(2012)「体育の教材をつくる」 大修館書店
- ・岩田靖(2016)「ボール運動の教材をつくる」 大修館書店
- ・菅野幸一郎(2011)「一流選手が教える女子バレーボール」 西東社
- ・福原祐三,鈴木理(2005)「みんなが主役になれるバレーボールの授業づくり」 大修館書店
- ・森昭三.和唐正勝(2002)「保健の授業づくり入門」 大修館書店
- ・石出法太,石出みどり(2017)「これならわかるオリンピックの歴史Q&A」 大月書店
- ・山崎至(2016)「オリンピックまるわかり事典」 PHP研究所
- ・大野益弘(2016)「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの1」 学校図書
- ・大野益弘(2016)「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの2」 学校図書
- ・大野益弘(2016)「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの3」 学校図書
- ・体育科教育(2016.10)「21世紀の体育理論を求めて」 大修館書店
- ・体育科教育(2016.11)「非認知スキルを高める学校体育」 大修館書店
- ・体育科教育(2017.4)「主体的、対話的で深い学びを体育でどう実現するか」 大修館書店
- ·「平成 25 年度 長期派遣研修員 研究報告書」(2013) 福岡県体育研究所
- ·「平成 26 年度 長期派遣研修員 研究報告書」(2014) 福岡県体育研究所
- •「平成 27 年度 長期派遣研修員 研究報告書」(2015) 福岡県体育研究所
- ·「平成 28 年度 長期派遣研修員 研究報告書」(2016) 福岡県体育研究所

#### おわりに

体育研究所長期派遣研修という貴重な経験を、教職経験が 10 年を超えたこのタイミングでさせていただいたことはとても幸運な事でした。学校では校長先生が「授業が命である」という言葉をよくおっしゃっていました。しかし、クラス経営、部活動、生徒指導、進路指導等、優先順位のつけ難い業務がたくさんあり、その結果、教師として一番大切にしなければならない「授業」の優先順位が低くなっていることに対して、忙しさを言い訳にしていた自分がいました。長期派遣研修員としての経験を通して、「授業」に対する自身の思いを改めることができました。とはいえ、この1年間でよい授業が「できる」ようになったわけではありません。1年間の研修での学びを活かし、これから研鑽を積み重ねることで、真の力を身に付け、還元していかなければならないと考えています。

1年間を振り返ると、研究ということに縁のなかった私にとっては、ゼロからのスタートでした。初めは、ひたすら先行研究や文献等を読み漁りました。長期派遣研修員を経験された先輩教師からいただいた、「いつか必ず、これだ!というものが見つかるから」というアドバイスを信じて、研究構想を書いては書き直すという日々が続きました。会議の中で助言いただくことも、私にとってはレベルが高く、その場ですぐには理解できずに苦しむことが多々ありました。しかし、指導主事の先生方の丁寧な御指導のおかげで少しずつ理解できるようになりました。本年度は新学習指導要領が公示される年であり、先行して公示された小学校、中学校の学習指導要領、答申に示された高等学校の改訂の方向性を見据えながら研究を進めることができました。研究の骨子である「体育理論と運動領域を関連付け、知識を活用して学習することを通して、資質・能力を高め、運動やスポーツを多様な視点で楽しめるようになること」これは、これからの授業づくりの視点として重要になってくると確信しています。

検証授業では、所属する小郡高校の生徒たちの一生懸命さに支えられながら授業を終えることができました。そして、授業を通して成長する生徒の姿を目の当たりにし、大きな達成感を得ることができました。授業づくりにおいては、学習指導案や教材等を、担当指導主事の先生方が的確なアドバイスにより修正してくださり、授業の中で、指導目標を達成するための「ねらい」をどう設定するのか、そのねらいに迫るために、生徒にどのような発問を行うのかということがポイントであることを実感することができました。

私が研究を進めていくことができたのは、様々な支えがあったからこそだと思います。本当に感謝の言葉しかありません。指導主事の先生方には、本当に粘り強く丁寧に指導していただきました。常に先を見据え、適切なタイミングで適切な指導・助言を行っていただき、正しい方向へ導いてくださいました。始めから、全ての答えを教えるのではなく、試行錯誤しながら経験の中で大切なことに気付き、成長することができるように、方向性を示してくださっていたことに、研究を進めていくうちに気付きました。私が成長することができたのは、このような御指導があったからこそだと考えています。本当にありがとうございました。そして、研究がうまくいかず悩んでいる時や、疲れている時に励ましてくれた家族の存在が私にとっての大きな支えとなりました。

また、小・中学校の長期派遣研修員の先生方とは、苦楽を共にしながら支え合ってきました。先生方がいなければここまでたどり着くことはできなかったと思います。私は支えてもらうことがほとんどでしたが、まさに運命共同体として共に過ごした日々は、私にとっての大きな財産となりました。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えていただきました、福岡県教育委員会に厚く御礼申し上げます。また、本研究を進めるにあたって、御指導いただきました福岡県教育委員会各位、福岡県体育研究所の稲富所長をはじめ、所員の方々に対しまして、深く感謝申し上げます。さらに、検証授業において御協力いただきました、福岡県立小郡高等学校の大久保校長先生をはじめ、保健体育科の先生方、教職員各位及び検証授業に意欲的に参加してくれた1年1・2組の女子生徒に心より御礼申し上げます。

今後とも、より一層の御指導、御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 30 年 2 月 16 日